



四谷一丁目遺跡

いせきはっくつ 遺跡発掘だより その八

いぬどし - 戌年にちなんで -



暦の上ではもう旧正月を迎えましたが、今回は今年の干支にちなんで、遺跡から出土した僕の仲間を紹介するよ。



町屋敷の一面に埋葬されたイヌ

江戸のまちは野良犬も多い一方で、ペットとしての飼育が一般庶民の間にも次第に広まり、猫と並んで身近な動物でした。遺跡からはイヌの骨が敷地の一角に丁寧に埋葬された姿勢で発見されましたが、番犬やペットとして愛玩され大切に供養されたのでしょう。イヌをモチーフにした遺物も多数出土しました。身近な親しみやすさに加えて、多産でお産の軽いイヌにあやかり安産や子どもの成長祈願、魔除けとしての習俗に由来すると思われる。



- ① 水滴：硯に水を注ぐ容器（口から水を注ぐようにつくられています）。この中では最も古く、江戸時代前期（約350-380年前）のもの。
- ②・③ 狎（ちん）抱き童子（どうじ）：②は「おしゃぶり人形」といわれています。④・⑤ 狛犬（こまいぬ）
- ⑧ 睦犬（むつみいぬ）：大阪の住吉大社では、現在も安産・腰痛除の縁起物として授与されています。
- ⑨・⑩ 犬の泥面子。ともに座り犬を表しています。⑨は前掛けをまとった羽衣狛（はごろもちん）でしょうか。



じゅうにし どろめんこ 【十二支の泥面子】

十二支の図柄と文字をあしらった泥面子です。現在、子・巳・午・未・申・戌・亥の7種類を確認。泥面子の本格的な整理はこれからのので、全てをコンプリートできる日が来るのも近いかも？

どろめんこ 泥面子のはなし ~その1 "泥面子"ってなに?~

泥面子は、江戸時代中期から明治初期にかけて流行った玩具です。とにかく種類が豊富で、家紋や十二支のほか、町火消しや役者・力士など当時の憧れのスターや世相を反映した様々な文様が表されていました。

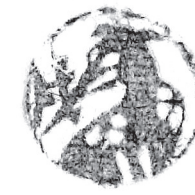
遊びの起源は、「意銭（穴）」と呼ばれる銭を用いた大人の博打とされ、こどもが遊びに取り入れていく過程で、泥面子が作られました。のちに様々な遊びのバリエーションが生まれ、明治時代には紙のメンコへとつながっていきますが、その続きはまた次回のはなしに。

ぜにうち あないち 意銭（穴）『和漢三才図会』

地面に掘った穴に銭を投げ入れる遊び方と、地面にばら巻いた銭のうち特定のものに、手持ちの銭をぶつける遊び方があった。



国立国会図書館デジタルコレクションより



出来上がり（実物大）

たくほん 【拓本】

凹凸のある遺物の文様を、ほぼ実物大で写し取ることのできる記録法です。

100円玉など硬貨を鉛筆で紙に写し取ったことはありませんか？これも拓本の技法のひとつ「乾拓法」です。ただし「魚拓」のように直接モノに墨は塗りません。遺物の上から紙をかぶせて水で固定させ、タンポという道具で墨をのせて写し取る「湿拓法」を用いています。



【福德招来！七福神勢揃い】

七福神が勢揃いした珍しい遺物。皆さまにも、どうかご利益がありますように！

* 四谷一丁目遺跡の発掘調査は、UR都市機構のご協力のもとに行っています。